

他力之宗旨仍故親鸞聖人撰物  
 語之趣所留耳底新註之偏為散  
 同心行者之不審也云  
 一 弥陀ノ誓願不思議ニスケラレ  
 テイラセテ往生シハトスレリト信  
 じテ念佛テラサレトオモヒタツコト  
 シルキスナハテ攝取不捨ノ利  
 益ニアツク又タツラナリ 弥陀ノ本  
 願ニハ老少善悪ノヒトシエラヒス  
 ク信心シ要トスルニハ合ソノ六

『歎異抄』永正本 (大谷大学蔵)

## 序

竊かに愚案を回らして、ほぼ古今を勘うるに、先師の口伝の真信に異なることを歎き、後学相統の疑惑あることを思うに、幸いに有縁の知識によらずは、いかでか易行の一門に入ることを得んや。全く自見の覚悟をもって、他力の宗旨を乱ること莫れ。よって、故親鸞聖人御物語の趣、耳底に留まるところ、いささかこれをしるす。ひとえに同心行者の

古今 親鸞聖人が、世におられた頃と、聖人亡き今日。先師の口伝の真信 親鸞聖人の口から直接お教えいただいた、真実の信心。後学相統の疑惑 あとの人が、信心を受け継いでいくときにおこる疑いや惑い。有縁の知識 仏法の世界に導いてくださる大切な師。易行の一門 本願を信じ、念仏する道。自見の覚悟 仏法に依らない自分勝手な解釈。他力の宗旨を乱る 本願の教えの大切な要を思い誤る。

不審を散ぜんがためなりと云々

第一章

一 弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせて、往生をばとぐるなりと信じて念仏もうさんともいたつこころのおこるとき、すなわち撰取不捨の利益にあずけしめたまうなり。弥陀の本願には老少善悪のひとをえらばれず。ただ信心を要とすとしるべし。そのゆえは、罪悪深重煩惱熾盛の衆生をたすけんがための願にてま

誓願不思議 阿弥陀如来の本願の、清浄にして真実をめぐむはたらき。  
往生 阿弥陀如来の世界（浄土）に生まれていくこと。  
撰取不捨 阿弥陀如来の救済を表す言葉。

〔誓願不思議〕「往生」  
「撰取不捨」については、  
補注69・70頁参照

信心 阿弥陀如来の本願にめざめる心。  
罪悪深重 如来に背き他を傷つける重い障り。  
煩惱熾盛 欲望、憎しみ、怒

します。しかれば本願を信ぜんには、他の善も要にあらず、念仏にまさるべき善なきゆえに。悪をもおそるべからず、弥陀の本願をさまたぐるほどの悪なきがゆえにと云々

りが激しく動いていること。  
衆生 いのちあるもの。人間。

第二章

一 おのおの十余か国のさかいをこえて、身命をかえりみずして、たずねきたらしめたまう御こころざし、ひとえに往生極楽のみちをといきかんがためなり。しかるに念仏よりほかに

十余か国 関東から京都にの  
はる途中の十あまりの国々。

往生のみちをも存ぞんじ知し、また法ほうもん文等とうをもしりたるらんと、ここにいくおほしめしておわしましてはんべらんは、おおきなるあやまりなり。もししからば、南都なんと北嶺ほくれいにも、ゆゆしき学生がくしやうたちおおく座ざわせられてそうろうなれば、かのひとにもあいたてまつりて、往生の要ようよくよくきかるべきなり。親鸞しんらんにおきては、ただ念仏して、弥陀みだにたすけられまいらすべしと、よきひとのおおせをかぶりて、信（兼）ずるほかに別の子細しさいなきなり。念仏は、まことに浄土じやうどにうまるるたねにてやはんべるらん、また、地獄じごくにおつべき業ごう

法ほうもん文もん教きょうえ、あるいは経典きんてんや注しゆ釈しやく書しよ等とう。  
ここにいく 何か興きやうがあるように。

南都北嶺 南都は興福寺や東大寺のある奈良、北嶺は延暦寺のある比叡山。  
ゆゆしき学生 すぐれた学僧。

よきひと 1頁「有縁の知識」に同じ。ここでは法然上人。

別の子細 特別な理由や事情。  
浄土 阿弥陀如来の世界で、迷いを超えた真実の国。  
地獄 迷いの世界のうち最も苦しいところ。  
業 ここでは、地獄に落ちる原因となる行為。

にてやはんべるらん。総そうじてもつて存知せざるなり。たとい、法然ほうねん聖人しやうにんにすかされまいらせ、念仏して地獄じごくにおちたりとも、さらに後悔こうかいすべからずそうろう。そのゆえは、自余じよの行ぎやうもはげみて、仏ぶつになるべかりける身みが、念仏をもうして、地獄にもおちてそうらわばこそ、すかされたてまつりて、という後悔もそうらわめ。いずれの行もおよびがたき身なれば、とても地獄は一定いちじやうすみかぞかし。弥陀みだの本願ほんがんまことにおわしまさば、釈尊しやくそんの説教せつきやう、虚言きよごんなるべからず。仏説ぶつせつまことにおわしまさば、善導ぜんどうの御釈おんしやく、虚きよ

すかされ だまされ。

自余の行 念仏以外の行。

一定 決定していて、まちがいないこと。

虚言 うそ、いつわり。

善導の御釈 釈尊の教えに對する善導大師の解釈。